

ごみ 地道な積み重ねが大きな効果

公明党 川原 議員

議員 三鷹市のごみの総排出量は依然として多い。①一部地域で実施している。②可燃ごみの夜間・早朝収集の対象地域を拡大する予定はあるか③ペットボトル、プラスチック類の分別収集についてもどうか④生ごみ処理装置等の購入費助成制度の利用状況を聞く⑤本市の基本計画には、「家庭系ごみ

有料化の検討」が提示されている。有料化の検討が提示されている。導入済みの自治体の事例を見て、有料化は必ずしもごみの減量につながるわけではない。市民の意見を幅広く聞き、時間をかけ慎重に検討すべきだ。有料化への所見を伺う④ごみ問題は、環境問題の原点とも言える。一人ひとりが自覚を持ち、今こそごみ問題に真剣

一般質問



圧縮、こん包されたペットボトル ……ふじみ衛生組合

収集をスタートさせる予定だ③ごみの減量化、資源化を推進しながら、市民の意見を耳を傾け慎重に対応したい④意見・情報交換できる仕組みが必要と考える。

生活環境部長 ①の現時点ではない②15年度までの累計は、コンポスト容器が5千500世帯、生ごみ処理機が100台、④の関係部署と十分協議し、検討してみたい。⑤その他の質問は福祉対策について

特別支援 当面の課題を解決せよ

公明党 緒方 議員

議員 障害児教育から特別支援教育への移行準備が進んでいる。市はトータルライフケアの観点から独自の施策を実施すべきだ。①学習障害児等指導相談事業は、専門家各名学校を巡回し、教員に児童・生徒への適切な指導をアドバイスするなど成果をあげてきた。さらなる事業展開について所見を伺う②心身障害学級の児童・生徒数は増加傾向にある。早急な施設増設、担当教員の増員等の対応が必要だ③現障害児教育への対応、特別支

援教育に向けた準備の全体進行に、管理責任をもつコーディネーター等の、優秀な人材確保を積極的に進めたい④特別支援教育を推進する準備委員会にて検討を進めたい⑤機会を十分持たせるよう対応したい⑥特別支援教育の問題は、基本計画改定の中でも十分検討したい⑦東京都など関係機関との調整等、準備委員会でも検討していきたい。⑧その他の質問は市長2年目の課題と決意について、外郭団体との連携強化を

旧吉祥寺 車を減らし安全な道路に

日本共産党 栗原 議員

議員 新川から新川交番前までの旧吉祥寺通りは、道幅が狭く、十分な歩道もない。吉祥寺通りの整備後も、普通車の交通量はほとんど同じである。一刻も早い整備、パリアフリー化が必要だ。①地元では「市と協働で整備計画をつくらなければならない」という声が出ている。②整備方針を示せ③何を努力したかの計画が進まない理由を問う④進める条件を示せ⑤地域説明会を行うべきだ

道路形式にする④この道路をバスが走らないよう事業者に求めた⑤バス事業者との調整等に時間を要した⑥周辺環境の変化に応じた取り組みが必要だ⑦行っていきいたい⑧調査し都に改善を求めていく⑨都

特別文教・マンション計画に対処せよ

日本共産党 岩田 議員

議員 かつて新川にある学校用地が売却され、大きなマンションが計画される事態があった。現在、牟礼にある女子大学からも同様の話が伝わってきている。この大学の敷地は、今回の用途地域等見直しの中で、特別文教・研究地区に指定される。学校用地という特別の用途、高い容積率を利用したマンション建設があつてはならない。特別文教・研究地区内の建築制限条

例の有効な活用、補強を早急に行うべきだ。①条例の趣旨、市のまちづくりの姿勢を大学側に伝え、計画取止めを要請せよ②条例を直ちに改正すべきだ。学校の敷地は学校施設及びこれに付随する施設に限定する。あるいはそれ以外を建築する場合には、今回の例でいうと容積率は100%ではなく、近隣と同じ80%を上限とする。こんな改正が必要ではないか③地区計

画も一つの手法だ。当該大学の周辺を含めて策定し、その中で学校敷地は学校施設とその付随施設に限る④こうした検討を行うべきだ。市長 ①大学側との具体的な協議のため、詳しい所見は控える。助役 ②条例改正や地区計画を含め、あらゆる手法を検討していきたい。体を張って交渉に臨む。③その他の質問は年金について

さらなる子育て支援策の充実を

公明党 永原 議員

議員 安心して子どもを育ててもらう。社会環境の整備・充実が必要である。①乳幼児医療費の助成制度は、子育て支援策の一環として大切な。都内では、就学前まで所得制限を撤廃し、制度の拡充を行っている自治体もある。三鷹で

も、乳幼児医療費助成制度の所得制限の撤廃を、現行の0歳児から3歳児まで拡充できないか②平成14年第2回定例会で、市立幼稚園3園を順次廃園する内容の条例が可決された。わが会派は、子育て支援策としては必要な、幼保一元

介護保険見直しに市民の声を

日本共産党 大城 議員

議員 05年の介護保険制度見直しに向け、国では検討を行っている。しかし報道では、20歳からの保険料徴収について聞く②国に1層の財源対策を求めよ③保険料の段階を細分化すべきだの要支援、

動きについて所見を示せ④市民の意見を上げるべきだ⑤20歳からの保険料徴収について聞く⑥国に1層の財源対策を求めよ③保険料の段階を細分化すべきだの要支援、

小・中一貫 30人学級の実現を

日本共産党 森 議員

議員 小・中一貫教育校構想は過去4回の意見交換会でも、多くの疑問や不安の声が出ている。①市民の幅広い意見や要望を聞き、教育長は何を得たか②今必要なのは、市民の声を整理分析し、教育委員会が十分議論を行い、再度考案を示すことである。スケジュール

ールにこだわらず、丁寧に対応すべきだ③意見交換会では、中学校の問題も指摘された。小学校から中学校への段差は、むしろ中学校にあるのかもしれない。④中学校を改善せよ⑤30人学級の早期実現に取り組み⑥小学6年生の中学校舎への移行はないと考えてよい⑦現場の教師と保護者が語り合える場を設定せよ⑧平成17年度実施は、まず白紙に戻すべきだ。⑨その他の質問は上連雀一丁目のバス路線について



介護保険は見直しに向けて動き出した ……5月に開催された福祉用具フェア

基本計画 子ども・高齢者に視点を

市民の党 杉本 議員

議員 基本計画の改定は、社会経済状況等の変化を基に、前提条件や基礎指標を変更して行うべきだ。①市の人口は、マンションの建設フッシュ等による増加してい

る。計画人口、年齢構成を修正し、計画の改定をすべきではないか②市税収入や投資的経費等も、計画上の数値と異なってきた。対応を示せ③保育園の待機児解消、地域ケアの推進、安心して歩ける道路に視点をあてて、最重点・重点プロジェクトの見直しをせよ④計画の改定は、市民・議会と協働すべきだ。方針・日程等を聞く。市長 ①長期予測調査の結果を踏まえ、教室や学童保育所の適正配置等を検討する②今年9月に骨格案を示したい③見直しを検討する④ITも活用し、市民参加を図り、来年1月以降に案を示したい。適宜、議会にも報告する。企画部長 ②④市で負担する、

コミュニティ 市民が利用しやすい運行を

市民の党 斎藤 議員

議員 本市は鉄道駅がすべて市境にあり、市民の足は自動車や自転車に依存する。公共交通機関であるバスへの利用度を高めるため、市民が使いやすいコミュニティバスの運行が必要だ。また、高齢化

社会の進行とともに、高齢者の生活の足となるコミュニティバスの充実が求められる。①コミュニティバス存続のために補助金の上限をどう設定しているか②西部ルートは、三鷹台駅への路線延長の要望

が強いが道路の幅員が狭い。そこで乗合タクシーの運行はどうか。市長 ①ルート全体の赤字額に対して、1年で2千万円を上限として、②乗りの継続運賃制度の拡充を含め、新たなコミュニティバスのあり方を見直す準備を進めている③新たなルートを拡充する場合には、検討する必要がある。